

令和4年度の学校評価について

次のとおり学校関係者評価委員会を開催し、意見交換、評価を行いました。

学校関係者評価委員会

日時 : 令和5年7月13日(木) 午後1時30分～
場所 : 甲府看護専門学校 校長室

学校関係者評価委員会 委員

氏名	所属	役職等
中尾 篤人	山梨大学医学部	医学部教授
小石川 好美	市立甲府病院	看護部長
角本 十四枝	学校同窓会	前 同窓会長
鈴木 裕	東洋大学理工学部	有識者
若尾 ふさ	甲府看護専門学校	副校長

学校関係者評価委員会

学校関係者評価委員会の評価結果

令和5年7月13日開催

		評価項目	評価委員会の評定	委員会の評価及び今後の課題
1 学 科 運 営	I 教育理念・教育目的	1. 本校の教育理念が教職員に正しく理解されている	3	教育理念は「豊かな人間性を備え地域に根ざした看護実践者の育成」である。教員研修、職員会議をはじめとする各種会議、日々の教育活動を通してに共通理解している。
		2. 本校の教育目標が教職員に正しく理解されている	3	教育目標は教育理念・教育目的と一貫しており、教育理念とともに教職員に理解されている。
	II 教育目標	3. 教育目標は、教育理念、教育目標と一貫性があり、設定した教育内容を網羅している	3	教育目標は、①人間を尊重できる能力②専門職としての倫理観③看護を実践する能力④問題解決能力⑤保健医療福祉チーム内で協働調整する能力⑥自己研鑽能力を養うである。教育内容は教育目標ごと、領域ごとに構造化し、科目を設定している。
		4. 看護師資格取得等、目標が具体的で実現可能となっている	3	教育目標と教育内容の構造化により科目設定されていることから目標と教育内容には一貫性があり、実現可能性は高い。教育目標は、「教育目標の解説」として学生が理解しやすい表記をしている。
		5. 卒業時に看護実践能力を有している	3	教育内容は教育目標を実現するための内容を網羅しており、卒業期までの全課程を終了することで、本校の目指す看護実践能力は養われる。今年度も新型コロナウイルス感染症対策のもと、オンライン講義、分散登校による技術演習指導、紙面上患者を用いたシミュレーション実習により看護実践力は習得されている。
		6. 国家試験、准看護師試験の合格率が目標に達している	2	国家試験合格率は89.8%(看護第1学科88.4%、看護第2学科94.7%)であった。准看護師試験は合格率100%を維持することができた。資格試験全員合格に向け、入学前から卒業期まで、段階的に学習支援を展開しているが、今年度もコロナ禍での受験準備となり、リモートでの支援が中心となった。感染や感染による受験への不安、行動制限による孤独感など多くのストレスを抱えての受験であった。心身への支援体制を強化し、100%合格に向け取り組んでいきたい。
	III 教育課程経営	7. 教職員は、教育課程と授業実践、教育評価との関連性を明確に理解している	3	教職員は、教員研修や職員会議などで教育課程について共通理解している。教員は日々の授業評価の他、授業最終日に授業アンケートを実施し、科目目標の達成状況、教育方法の妥当性を総括評価し、自己の教育力向上につなげている。
		8. 教職員は、教育理念・教育目標の達成に向けて一貫した活動を行っている	3	教育理念と教育目標は一貫性があり、教育内容は教育目標を達成するために設定されている。教育課程の構造から、日々の教育活動は教育目標達成に向けた活動であり、教職員は教育活動の評価によってその一貫性を維持している。
		9. 教育課程は、看護学の内容や学生の成長について明確な考え方、根拠をもって編成している	3	看護学の内容は看護の対象である「人間」、看護の目的である「健康」、健康に影響する「環境」、そして「看護」である。教育内容は人間、健康、環境、看護を学ぶための基盤となる基礎、専門基礎分野の科目を設定している。本校の学生は年齢層に幅があり、社会経験の広さが特徴である。学生の発達段階、社会経験を理解したうえで、個々の発達速度や経験値に応じた教育実践を行っている。

学校関係者評価委員会

	評価項目	評価委員会の評定	委員会の評価及び今後の課題
III教育課程経営	10. 単位認定の基準及び方法は、看護師等に必要 な学修を認めるものとして妥当である	3	<p>単位認定は学則第12条施行細則第5条に基づき、授業科目履修後の科目試験、臨地実習評価により行っている。科目試験は科目の理解度を評価するために真偽、穴埋め、記述式などの方法を含む客観試験を実施している。実習評価は学生と教員の面接を実施し、実習評価表による実習目標の達成度を評価している。面接では学生に自己評価を提出させ学生の達成度を確認しながら、教員と実習指導者とで検討した目標達成度を学生にフィードバックしている。評価基準はABCD4段階とし到達度60%以上のものに単位を認定している。学生には履修要覧により、単位認定に関する内容を提示している。</p>
	11. 教育課程を評価する体系を整えている	3	<p>成績に関する評価は、科目試験で認知領域の評価、実技試験で精神運動領域、情意領域の評価を行い、総括評価として卒業認定会議を実施している。単位認定は「単位認定に関する規定」に基づき臨地実習前、年度末に教務会議の議を経て運営会議で最終決定している。</p>
	12. 臨地実習の目標達成のため、実習施設、指導者 との協力体制が整っている	3	<p>新型コロナ感染症対策のため、前年度に引き続き、学内シミュレーション実習となった。実習指導者会議は回数を減じ、紙面連絡やオンラインでの会議により双方の情報交換を図った。指導者との関係も良好で協力体制は整っている。</p>
1 学科運営	13. 授業内容は、教育課程との一貫性がとれている	3	<p>授業内容は教育理念、教育目標に基づき設定され、科目ごとに単位、時間数を決めている。年度末の授業評価、シラバスの点検、年度初めの領域別会議での教育内容の共通理解により一貫性のある授業づくりができています。</p>
	14. 授業形態(講義、演習、実験、実習)は、授業内容 に応じて選定している	3	<p>今年度も感染症対策に対応しながら、ハイブリッド型の授業を継続した。教育内容については、ゲストスピーカー、活躍する卒業生の起用、他学との多職種連携演習により、アクティブラーニングの要素を継続している。また、臨地実習の代替として導入したシミュレーション実習に加えIT機器を活用した演習の実施など多彩なシミュレーション教材と授業方法が取り入れられ、教育力が向上した。</p>
	15. 授業の展開過程の他に、学生の学習が深化、発展 するための方法を意図的に選択し、学習を支援 している	3	<p>オンライン授業の導入により、情報機器を活用した学習活動が可能となった。今年度は特に演習指導において積極的に活用し、技術教育の充実を図った。一般科目では国内外のゲストスピーカーと、統合科目では他学とネットワークをつなぎ、発展的な学びを提供している。 また、学力低迷者へは、個別の学習指導のほか強化クラスを設け、学内外講師による補習講義の実施により学力向上を図っている。</p>
	16. 評価結果に基づいて、実際に授業を改善して いる	3	<p>教員は、教員研修や授業研究会参加、日々の授業評価、最終講義時に実施する科目試験や学生アンケートの結果から、教育目標の達成度、授業方法、教材教具の妥当性などを分析しわかりやすい授業実践に向け研鑽している。その結果、多彩なシミュレーション教材の開発につながっており、今後は学生の興味関心をさらに引き出す授業展開を実践していく。</p>
2 経営	IV経営・管理過程 17. 明確な将来構想のもとに、運営の中・長期計画、 短期計画、年間計画を立案している	3	<p>本校は、看護第1学科、看護第2学科及び准看護学科の3科体制で看護師、准看護師の養成を行っている。 准看護師資格を有する学生が看護師資格を目指す看護第2学科及び県内唯一の准看護師を養成する准看護学科を有していることが本校の特徴であり、中長期的にもこれら2科を存続させていくこととしている。 また、短期的には、教育活動をより安定させることに傾注し、教育の設備環境、人的環境の充実はもとより、教育の質の向上に努めている。これら計画、方針に基づき、令和4年度の年間計画を作成し、実施している。</p>

学校関係者評価委員会

	評価項目	評価委員会の評定	委員会の評価及び今後の課題
2 経営	IV 経営・管理過程	18. 意思決定システムが明確になっている	3 本校の運営に関しては、法人の理事会及び評議員会によって意思決定が行われるが、学校運営にかかる事業内容や予算執行などは、学校長を中心に副校長、教務課長及び事務長で構成する運営会議によって協議し実施に移している。
		19. 予算計画、事業計画を策定し、適正な予算執行に努めている	3 予算計画、事業計画は毎年作成し、理事会及び評議員会において承認を得ている。 予算執行に当たっては、事業の必要性や費用負担の軽減に努め執行している。特に、大規模修繕やパソコン等の入れ替え等費用負担が大きな事業については、収支の状況や使用可能状況を考慮し、より計画的に執行している。
		20. 財政基盤を確保することについての考え方が明確である	2~3 財政基盤を確保するため、財務推計による収支の将来予測を行い、中長期的な財務状況の把握に努めている。 令和4年度においては、国等の補助金を積極的に活用し収入増を図るとともに、退職者の補充を再雇用や臨時教職員に変更するなど、人件費の削減による支出の見直しを行った。
		21. 学習・教育環境の整備について、整備計画を立案し、実施している	3 施設整備については、学生の安全と学習効果を最優先に、逐次改善に努めており、これまでにパソコンルームや図書室の整備を行ってきた。 令和4年度においては、東館の照明をLED照明に改修し、学習環境の改善と省エネ化による経費削減に努めた。また、図書室には、看護や医学の専門図書の整備を引き続き進めている。
3 学生生活	V 生活支援・進路支援	22. 学生が活用しやすいように学生生活の支援体制を整えている	3 ピアサポートにより、人間関係づくりや心理支援を組織的に行っている。オンライン授業の長期化により、孤立感、焦燥感などのストレスを表現する学生が増加した。そのため、一人一人と意思疎通をはかり、個々の問題に対応してきた。重要な問題を抱えた学生に対しては早期から保護者・保証人との連携を行い、ピアサポート担当が専門的な対応にあたった。また、事例に応じて、スクールカウンセラーや医療機関とも連携し支援を行った。経済的支援では公的奨学金制度の紹介、学費納入困難な学生への分納制導入など個々の学生にあった支援を実施している。
		23. 学生が学生生活を円滑に送り、教職員が職務に遂行できるように施設設備を整備している	3 オンラインによる講義、実習指導が円滑に実施できるよう、講義スタジオ、講義室、情報科学室を整備するとともに、全館にWi-Fi装置を設置した。また、ネットワーク環境が整わない学生には情報科学室を開放し、学習継続を可能としている。新型コロナ感染症予防のため、図書室の使用は予約制とし、図書の閲覧、貸出を行った。
		24. 卒業後の進路選択への支援体制が整っている	3 担任を中心に、進路相談に応じ、学生の適性に応じた進路指導を実施している。情報提供では、無料職業紹介規程により、図書館内に就職・進学情報コーナーに募集案内を提示し進路に関する情報提供を行うとともに、情報機器により情報発信している。進路指導では、1年次より進路調査を実施し、学生の希望、適性、家族背景などを踏まえ個別に相談・指導を行っている。
4 入試	VI 入試・募集	25. 入学者の選抜の考え方と教育理念・教育目標との一貫性がある	3 入学者の選抜は「入学に関する規定」に基づき、教育理念教育目標を反映する教育課程を履修するために必要な基礎学力、適性のある人物を選考している。
		26. 入学者状況、入学者の推移について、入学者選抜方法の妥当性及び教育効果の観点から分析し、検証している	3 入学選考委員会により選抜方法の妥当性を検討し、推薦、社会、一般入試を実施しており、一定の入学者数を確保できている。しかし、成績低迷者も増加しており、定員確保と学力維持が課題である。

学校関係者評価委員会

		評価項目	評価委員会の 評定	委員会の評価及び今後の課題等
5 学生動向	VII 入学・ 在籍・ 卒業・ 就業・ 進学	27. 学生募集に際し、より多くの応募者の確保に努めている	3	ホームページによる教育活動の随時紹介、対面式の学校説明会、高校訪問、を中心に積極的な募集活動を行った。その結果、看護第1学科では定員並みの志願者数を確保することができた。
		28. 入学の状況を分析し、次年度以降の活動に生かしている	3	少子化、大学志向により、専門学校志願者は減少を続けている。今年度は、看護第1学科62名、第2学科17名、准看護学科17名、総計96名が入学、充足率は60%であった。募集活動で一定の志願者数は確保できたが、学力や対人関係能力など、適性に欠ける者も含まれていたため、結果的に定員割れとなった。看護第1学科では共通テスト後の進路変更による辞退者もあった。
		29. 卒業生の就職・進学状況を分析し、次年度以降の活動に生かしている	3	令和4年度卒業生総数は99名、うち就職81名、進学15名、就職率は88.0% 民間施設47名(51.1%)、公立施設34名(37.0%)で、設立目的の地域医療への貢献という所期の目的は達成されている。准看護学科生の進学率は5~6割を推移している。准看護学科の進学は2学科の定員確保と関連するため、家庭環境や経済的基盤を考慮した進学支援を継続する。
6 地域・研究	VIII 地域社会 ／ 国際交流	30. 社会との連携に向けて、地域のニーズを把握している	3	高齢社会到来、地域ケア推進の観点から、看護職員確保は重要課題である。第7次山梨県看護職員受給計画では、H30年には就業者数が需要者数を上回っている状況ではあるが、在宅療養の推進により、優れた観察と病態推論ができる看護師が求められている。本校の教育目的である県内の保健医療福祉に貢献できる看護実践者養成を実現させるために、さらに教育内容を充実させ、社会の要請に応じた看護師准看護師の輩出に努めていきたい。
		31. 看護教育活動を通して地域社会への貢献を組織的に行っている	3	前年度同様、新型コロナウイルス感染症対策指針に則り、健康祭や地域美化活動などの集団活動は自粛した。個別の活動として可能な範囲で、学生、教員が居住する地域の人々に感染予防の啓もう活動を実施した。今後とも、政府の発する感染症対策の方針に従い、感染症対策を継続しながら徐々に教育活動を拡大し、地域貢献に努めたい。
7 自己点検評価	IX 学校 自己 点検	32. 自己点検・自己評価等の意味と目的を理解している	3	自己点検・自己評価は、学則第5条に基づき、教育活動の維持・向上を目的とし、各教職員が一次評価を行い、各部門ごとの評価を委員会が総括評価している。
		33. 自己点検・自己評価結果及び学校関係者評価結果を学校運営、授業等にフィードバックしている	3	毎年、年度末に学校経営、教育課程経営、教育活動など各部門で評価を実施し、次年度の事業計画、教育活動に反映させている。令和元年度より学校関係者評価を実施し、外部からの評価や意見等も取り入れている。また、その評価結果を公開することで更に点検機能を充実させている。